

# 手順 05 古い石積みを崩す

## 崩し6割、積み4割

床掘りは、すでに積んである石や、もしくは崩れた土砂や土を、いったん取り除く作業です。これは崩す作業であると同時に、次に積む作業のための材料を用意する作業でもあります。ですので大きさなどによって、石や土を分別しながら崩す必要があります。

床掘りは、積み直し作業全体の6割にもなると言われます。実際に積む作業よりも、崩す作業の方が仕事量としては多く、たいへんなのです。崩す作業が大変だからといって重機を使ってしまおうと、石の分別ができないので、その後の作業がもっと大変になります。ここはぐっとがまんして手作

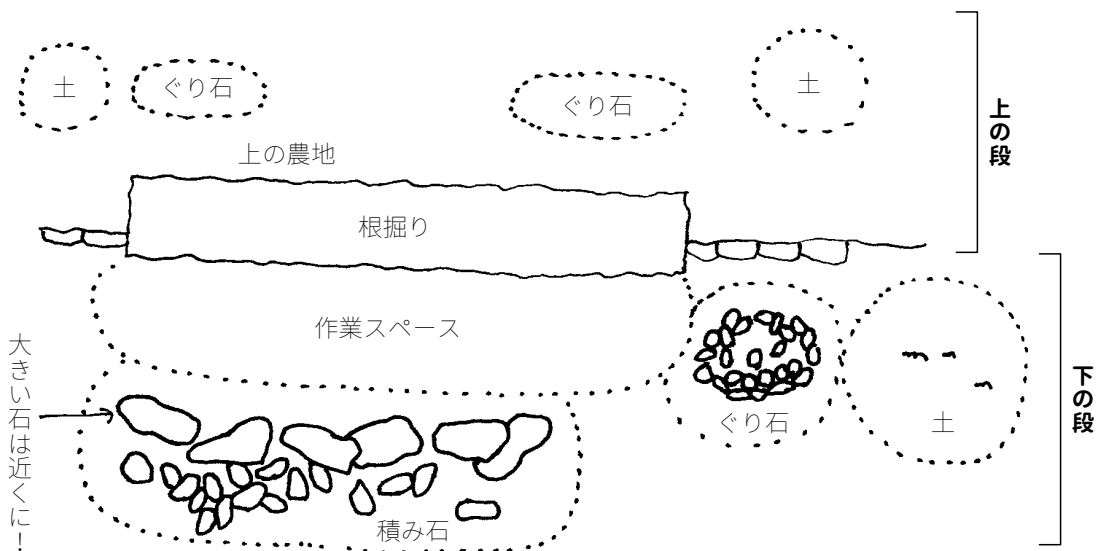


図3-2 石積みを崩すときの、積み石・ぐり石・土の置き場所の例（上から見た図）

業で崩しましょう。ただし、このあとで説明する「根掘り（50ページ）」は、小型の重機で作業してもかまいません。

ここでしっかり石や土を分類しておかないと、次の作業の効率が格段に悪くなります。また、それぞれの材料を使いやすい場所に置いておくことも重要です。

### 崩すときは置き場所を決める

積み石・ぐり石・土に分けながら崩していきます。棚田、段畑などでは場所が狭いので、作業効率などを考えた置き場所を作ります。 **図3-2**

石積みの上の方のぐり石や土は、上の農地に置き

るならば、上の方の石や土ははじめからそこに集めておくと、後の作業が省力化できます。

#### ① 積み石

積む場所の一番近くに置きます。その際、作業スペースを確保したうえで、大きいものはなるべく移動しなくてよいように手前に置きます。積む際は大きいものから積んでいくので、作業に入るとすぐに片づきます。

#### ② ぐり石

積み石より、少し遠くに集めます。足りなくなることが多いので、面倒でも積み石や土としっかり区別しておく、後の作業が楽になります。ぐり石と土をきれいに分けておけば、完成後に余った土は、畑や田んぼにそのまま戻すことができます。

#### ③ 土

土は、仕上げまで使わないので、一番遠くに集めます。田んぼの場合は、畦の粘土質の土は仕上げに重要なので、別によけておきます。

# 手順 06 積み石とぐり石を分ける

## 現場の状況で判断する

積み石とぐり石は、基本的に大きさと形で分類します。大きめの石や細長い形状の石を「積み石」、それ以外の石を「ぐり石」にすると、いう大まかな基準はありますが、実際には判断しにくいものです。

最初から積み石とぐり石の境界線がはっきりしていることはあまりありません。石積みを崩しながら分けていき、最後の方で残りの石の量や状態を見ながら、積み石とぐり石を分ける基準を調節します。状況に応じて判断するのは頭を使いますが、そこが農地の石積みの面白さでもあります。

積み石とぐり石の違いは、初めての人には見分けにくいかもしれませんが、一度積むと段々わかって

きます。まずは悩みながらでよいので、分別してみてください。

### ① 中途半端な大きさの石

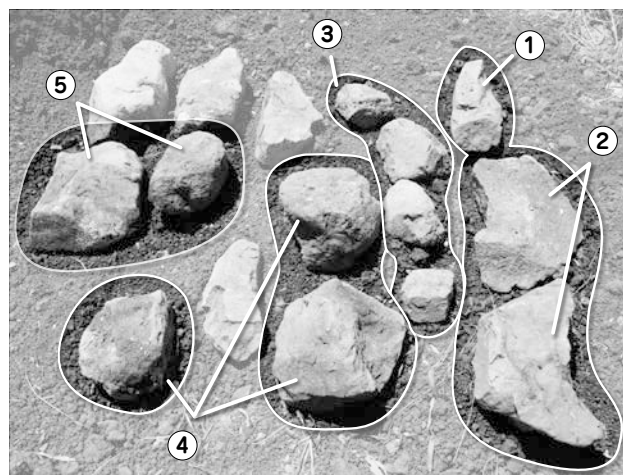
全体的に細長い石であれば、小口が小さくても積み石にできます。長さが長いものは積みにくいので、無理に積み石にせず、ぐり石にしましょう。

### ② サイコロ型の石、球型の石

この形の石は安定が悪いので、積み石がたくさんあればぐり石にします。ある程度の大きさがあれば、半分に割ってから積み石にするやりかたもあります。場所によってはこれらの形の石ばかりのところもあります。その場合は形に関係なく、大き目のものを積み石にするしかありません。勾配を緩めたり、裏にぐり石をきっちり入れたりして、強度を高めるように工夫します。



積み石とぐり石を大まかに分類しながら分けて置くのがコツ



- ① 通常はぐり石に。形（プロポーション）としては長細いが、長さがあまりないため。全体的にこうした石しかなければ、積み石に
- ② 積み石に。長さがあり、積みやすい
- ③ ぐり石に。小さいので
- ④ 大きさはあるが、ぐり石に。サイコロ状で積みにくい。大きさがあれば半分に割るなどして、積み石にすることも
- ⑤ 基本はぐり石に。サイコロ状に近いが、少し長細かったり、平べったい形なので、よい形の石が少なければ積み石に